

こんどう
近藤

さえ子の小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声

一本の小枝で結ぶ地域の世代

一本の小枝が渡す地域と区政

No.28 2016年8月発行

東京都に初めての女性知事が誕生し、アメリカでは初の女性大統領候補が選出され、まさに「女性が輝く時代」の始まりを感じます。

一方、私たちの日々の暮らしはどうでしょう。働きたくても、子どもが保育園に入れず諦める。パートの仕事を得ても、子どもの学費を考えると生活が精一杯。親の介護のために仕事を辞めなくてはならない。「輝くところではない!」多くの女性たちの悲鳴が聞こえてきます。

国はこれまで専業主婦を優遇し、子どもの教育、地域の仕事、介護等を「女性の役割」としてきました。もちろんその中で、主婦として家庭や地域社会で活躍する「輝く女性」は大勢いました。しかし今後、本当に女性が自由に輝く社会を築くのであれば、インフラ整備はもちろんですが、発想の転換も必要です。これまで主婦たちが担ってきた子育て力、介護力、防犯力、環境整備力、地域をつなぐネットワーク力、これらの担い手、新たな役割を作っていく必要があると考えます。

そして、これからのグローバル社会を担う若者たちが、ポケモンGOで「モンスターGet!!」以上にやりたいことがたくさんある社会、女性も男性も皆が輝ける社会とするため、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



いま中野区は!

中野区が目指す「グローバル都市」とは?

中野区は、大きく変わろうとしています。区役所・サンプラザ地区、中野駅周辺、西武新宿線の連続立体交差化等の整備を経て、区は中野駅周辺をグローバルに展開するビジネス拠点として選ばれる都市づくりを推進していく計画で、毎週1万人規模の催事により、来場者を50万人増加させると言います。

常に来訪者で混雑し、外国からの観光客や移住者が増える一方、図書館をなくし、児童館やU18プラザはなくなり、子どもたちは、1日中学校内に留められ、乳幼児親子は商店街の空き店舗に集めると言います。これからのグローバルな未来を生きる子どもたちにとっては、なんとも窮屈なまちなりそうです。

また、地下面積増等の変更により、新区役所(平成33年竣工予定)整備費は、すでにUPし(201億円→221億円)、さらに、平和の森公園の体育館整備(平成31年開設予定)や中野駅周辺の大規模集客施設等整備等は、東京オリンピック・パラリンピックの整備の時期と重なり、労務単価、公共事業費の高騰が懸念されます。

地域開放型学校図書館

本町図書館と東中野図書館を統合する再編計画反対の陳情は否決され、今後、地域の図書館は、学校の中に整備されていく計画です。



中野駅西側南北通路・橋上駅舎の整備

JR東日本と中野区とにより基本設計を実施しましたが、駅と自由通路の開業までには最低でも10年6か月、駅ビルの開業までには12年5か月かかる予定との報告がありました。工事費(中野区負担分)も当初より増えました(73億円→119億円)。(建設委員会報告)

今の中野駅は、エレベーター設備もなく、狭すぎて混雑が激しい改札口の改善も喫緊の課題です。グローバル都市の前に、ごく普通の駅舎環境整備が求められます。

U18プラザ計画廃止

過去10年間謳い続けた、中高生のためのU18プラザ整備(そのため児童館を廃止)は失策に終わりました。その結果生じたのは、日常的な行き場を無くした乳幼児親子、一日中、学校に留め置かれる子どもたちの姿です。(裏面「私の議会報告」参照)

区立幼稚園の廃止継続審査

現在区に2園ある区立幼稚園の存続を求める陳情が継続審査になっています。幼児教育に関して自治体の責任をどのように果たしていくかが問われています。

議員報酬を上げる条例可決

議長 3,100円・副議長 2,600円・委員長 2,200円・副委員長 2,100円・議員 2,000円報酬値上げの条例が3月25日可決されました。また、区長 4,300円・副区長 3,400円・教育長は職務負担増に伴い32,000円上がりました。

私は、区民サービスが削減されている状況下で議員報酬UPは区民の理解を得られないと思い、当議案に反対しました。


<http://saekonikki.exblog.jp/>

日々の活動をお知らせしています。

6月25日「社会を明るくする運動」

近隣の中学校を会場とした「社会を明るくする運動」に参加しました。

校長先生から、自身が新任の教師時に部活動を指導した生徒の話を伺いました。彼女は卒業後、大病をして片足を失い、想像を絶する努力を重ね、やがて結婚し幸せな家庭を築いたそうです。校長先生が「どうして君はそんなに大変な道を歩めたのか」と聞くと、彼女は「部活動の中で、大変な方と、大変でない方があったら、大変な方を選ぶことを、先生がいつも教えてくれたでしょう」との返事に先生も驚いたそうです。例えば、試合を終えた翌日、練習をするか、しないかと判断を迫られた時、苦しくてもやる方を選んで来たと言うことでした。

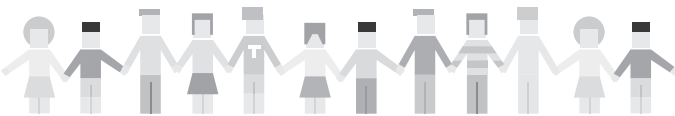
校長先生は「PTAをやる、しないの選択があった時、やってみる選択、これも人生を豊かにしていくのではないのでしょうか」と話されました。

6月2日 山口県被害者支援連絡協議会

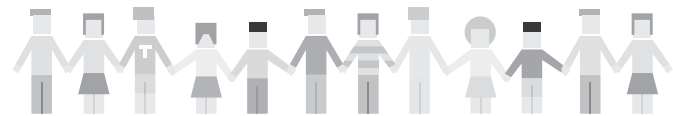
山口県警察、山口地方検察庁、山口県、他に福祉、医療関係など犯罪被害者を支援する団体で作る県被害者支援連絡協議会の総会と講演会において、私は、参加者約350人を前に80分の講演を行いました。聴講者の中には、山口県警察学校の若い生徒たちもいました。

講演終了後、「近藤さんの言うとおり、あらゆる面で被害者への支援は手薄い」「自治体が被害者のために積極的に動くことが必要」等、私の講演の内容を皆さんが高く評価してくださいました。翌日の新聞(山口県地方版)2紙に、この講演の内容が載りました。





私の議会報告



近藤さえ子は第1回および第2回定例会で以下の質問をしました。(抜粋)

第1回定例会 一般質問 平成28年2月23日

予算特別委員会総括質疑 平成28年3月2日

◆ U18プラザ廃止について ◆

今年1月議会に示された「新しい中野区を作る10カ年計画、第3次(改訂素案)」に、「U18プラザの廃止」が明記された。

児童館機能を見直しU18プラザを9館つくる構想の無理、具体的計画案の不在を私は過去10年間にわたり再三質問し続けてきた。基本的な計画を立てられず、名前だけが走り続けたU18プラザ施策は、失敗に終わったことになる。

児童館では、職員が乳幼児から小学生、保護者たちと向き合い、一人ずつの子どもの生活に注視し、的確なアドバイスをしてきた。小学校卒業後も立ち寄れる児童館は、まさに学校、地域、家庭を結ぶ存在であり、青少年の健全育成に大きく寄与してきた。また、子育てを通し共に悩んだ保護者たちは、自身も成長し、地域の子育てに積極的に参加してきた。私はこの中野区が誇れる施設がなくなっていくことが残念でならない。

児童館の名称が変更しても、異世代交流ができ、子どもたちを見守り、保護者をも支える人がいて、子どもたちがのびのび育つ施設をなくさないでいただきたい。

区長答弁

U18プラザは、乳幼児親子の交流促進や相談支援、各年代の子どもの活動機会提供や支援等を目指したが、機能を十分に果たしていない。今後、さまざまな施設等を活用し、多様な事業の展開を図りたい。

キッズ・プラザでは、児童館同様、地域の力、協力を得ながら世代間交流や子供の成長に合わせたプログラムの工夫など充実を図っていききたい。

◆ 1.地域スポーツクラブについて ◆

近藤

スポーツを愛する区民の尽力でようやく形になってきた地域スポーツクラブを再度民間に委託することは、大変残念に思う。中部スポーツ・コミュニティプラザだけでも区民運営の地域スポーツクラブとして設置できなかったのか。

健康福祉部副参事(地域スポーツ推進担当)

事業の実施が安定的、継続的に行え、全区的な展開を図ることができる形態として、新たな地域スポーツクラブの設置を提案したい。

近藤

計画から8年を経て、スポーツを愛する区民の努力により、地域住民が集う場と成長した中部スポーツ・コミュニティプラザの活動は、今後の参考になると思うが。

健康福祉部副参事(地域スポーツ推進担当)

現在の事業の経験やネットワークなど、よいところは継承し、新たな地域スポーツクラブの設置に当たり生かしていきたい。



第2回定例会 一般質問 平成28年6月8日

◆ ごみの問題について ◆

近隣のゴミ集積所に、引っ越しする人が捨てたと思われる洗濯機が置かれたことを引き金に不適切なごみの投棄が続き、ゴミの山となってしまった。区では、監視カメラの設置、優良集積所認定制度の実施、小規模集合住宅の集積所設置指導等取り組んでいるが不適切なごみの投棄はなくなる。

指導班による改善指導後は、不当廃棄が減るようだが、清掃事務所の指導班の職員体制の強化が必要ではないか。

また、家庭ゴミの減量について。私は再三にわたり、他の自治体の家庭ごみの削減の取り組みを紹介してきた。しかし区では、「ゴミ減量化の検証を進めてきたが難しい」と、ゴミ減量取り組みや区民の意識喚起の努力も見えないまま、家庭ごみを有料化して、区民に費用負担を求めようとしている。有料化の前に、まず、ゴミ減量化への啓発を勧め、金沢市や江東区のように住民と一体となり、課題の解決に取り組む必要があると思う。

現在、区では、中野に観光客を呼び込もうと観光PRに予算を使って区の魅力をアピールし、また、「中野区に住みたい」と多くの人には選ばれよう努力もしている。区民が日常生活を気持ちよく過ごせる環境があって初めて、「住みたい街、中野区」に繋がる。ごみの問題を重要な課題として、区を挙げて取り組んでいただきたい。

区長答弁

当面、指導班の人員増強の必要性はないと認識している。出前講座の充実、ごみの分別の徹底等、積極的に働きかけていく。

◆ 2.新しい中野をつくる10カ年計画(第3次)(改定素案)について ◆

近藤

10カ年計画(第3次)(改定素案)に対し3回開催された意見交換会における意見は反映されるのか。FAXやメールでの意見募集の期間が最長で1週間では期間があまりにも短すぎたが、どのくらい多くの意見が寄せられたのか。

政策室副参事(基本計画担当)

意見に対しては検討を加えながら案を策定していく。類似の意見も含めて300件程度になる見込み。

近藤

「U18プラザ廃止によって全ての児童館もなくなることは地域の柱がなくなることであり、地域には子どもたちを支える拠点が必要で、子どもたちにはスペースが必要である」意見交換会で出されたこの元区職員の意見に、私は全く同感である。U18プラザ3館と移行予定の館が廃止になった場合、地域から子どもたちのスペースはどの程度減ってしまうのか。

子どもたちが伸び伸び遊べる空間を地域からなくさないで欲しい。区の財産の使い方を区民の合意なく決めないで欲しい。

北部すこやか福祉センター副参事(地域子ども施設調整担当)

延べ床面積合計はおよそ5,000平米。施設の跡地利用については、活用等を検討し、地域の皆様の声の聴取にも努めたい。

こ えだ

小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

近藤 さえ子 プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(4期) 趣味:テニス

こ えだ

近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所

TEL & FAX 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com